city & life

都市のしくみとくらし

no.73
autumn
2004

特集

マルチプル／モビリティ——コンパクトシティの条件

city&life no.73 autumn 2004

表紙・裏表紙―岐阜の町を走行する路面電車
(関連記事:p14)photo:小池晃

特集 マルチプル／モビリティ――コンパクトシティの条件

contents

インタビュー | 都市の魅力と交通の多様化コンパクトシティ論から考える | 海道清信 2

対談 | 中間域が「まち」を愉しくする | 土井勉×秋山孝正 7

ケーススタディ | 公共交通の活用がコンパクトシティを実現するか 14

岐阜市 | 路面電車存続問題で公共交通の意味を問い直す
福井市 | 歩行者優先の町「トランジットモール」を目指す
富山市 | 町の資源を生かして、さまざまなモビリティを提案する

綴じ込みMap | 自転車で東京・大阪ぐるっとひとまわり

連載 | 都市を拓いた人々㊷ | 前橋 35

information・back number 40

マルチプル/モビリティ—コンパクトシティの条件

特集

「コンパクトシティ」に関心が高まっている。わが国においても、都市マスタープランに取り入れる自治体も出てきた。いわゆる持続可能な都市を実現する手段の一つとして「コンパクトシティ」というコンセプトはわかりやすいからだろう。ただ、「コンパクトシティ」は、単なる形態上の都市モデルではない。重要なのは、なぜコンパクトでなければいけないかということである。それは、小さいながらも、都市のもつすべての要件が満たされているところにある。そこに生活し働く市民の欲求に応えられる都市。歩ける距離、あるいはせいぜい自転車やコミュニティバスといったスモール・モビリティで移動できる範囲にすべてのサービス機能がそろっていること、それが「コンパクトシティ」である。「コンパクトシティ」を実現させるための基礎には、こうしたモビリティ機能の多様化と向上が重要なのだ。
その実像よりも言葉の方が独り歩きしている感のある「コンパクトシティ」について、「マルチプル/モビリティ」、つまりモビリティの多様性に焦点をあて、具体像を探っていきたい。

photo:**小池晃**「JR大阪駅から梅田方面へ。通勤に急ぐ人々を自転車で追い越し、走る」(関連記事:綴じ込みMap)